



Title	＜受贈図書紹介＞宇佐美喜三八著『近世歌論の研究 漢学との交渉』
Author(s)	宇佐美, 喜三八
Citation	語文. 1988, 50, p. 48-49
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/68780
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

受贈図書紹介

宇佐美喜三八著『近世歌論の研究 漢学との交渉』

わが国の歌学が詩学の誘導を受けて発生し展開したことは周知の通りで、古代・中世の歌論や歌学に漢学との交渉を認め得ることは先進の研究に明らかである。儒学・漢文学が隆盛を極めた近世の歌論に漢学との交渉があったであらうことは容易に推察できるし、部分的に指摘されてもいた。本書は、この問題に真正面から取り組み、近世歌論の主流が具体的に漢学といかなる交渉をもつて展開したかということを追究したものである。

ところで、近世の歌論には中世歌論に追隨した堂上派の歌論もあるが、本書の研究対象は中世の歌論・歌学を超越した新しい歌論であつて、後掲〔内容目次〕に見られる学者・歌人たちが自覺的な精神に基づいて提唱した歌論を意味する。著者は、真の近世歌論は荷田在満の『国歌八論』から始まるとし、在満から大隈言道に至る歌論を広い視野に立って的確に展望し、その性格と限界を明らかにする。また、近世の精神文化で光彩を放つ国学と漢学に着目し、近世歌論が国学を地盤として成立したと、漢学が学問の基礎であつた時代の歌論に漢学からの影響は当然予想されることに言及、儒学と漢詩の展開を概観した上で本論に筆を進め、漢籍に述べられた思想や漢学者の抱いた思想と近世歌論との思想的交渉という問題に重点を置いて、実証的な方法で交渉の事実を究明する。中国の古典あるいは中国の学者・詩人・文人の書物に見られる思想や、わが国の漢学者の著述に見られる思想との交渉の事実の究明は詳細を極め、

豊富な資料を駆使して堅実に記述されている。そして、漢学思想の影響を考えることによって『国歌八論』をめぐる論戦の真相が理解できること、近世歌論における漢学の影響は、漢学によって得た知識の影響ではなく、むしろ思想の影響であること、それも概括的にいえば朱子学・仁斎学・徂徠学などの思想や詩説を反映したものであること、などの傾聴すべき事実が数多く提示されている。

本書の草稿は著者（元大阪大学教養部教授）自らが博士論文に加筆されていたもので約三十年も前に書かれているが、その所説は洞察に富みなお新しく、本書によって近世和歌研究者は多大の学恩と感銘を受けるであらう。終りに本書の内容を掲げておく。

【内容目次】序説 近世歌論の展開 本書における研究の課題 第一章 荷田在満の歌論 在満の歌論と漢学との交渉の問題について 歌源論における漢学との交渉 在満の歌論と古義学 第二章 田安宗武の歌論 宗武の歌論の成立に関して 宗武の歌論における漢学の影響 鳩巢の詩歌論との関係 第三章 大書中養父・太宰春臺の歌論 中養父の歌論における漢学の影響 春臺の歌論と『浪浪詩話』 第四章 賀茂真淵の歌論 真淵の漢学の教養に関して 前期の歌論と漢学との交渉 後期の歌論と漢学との交渉 第五章 本居宣長の歌論 宣長の歌論の温床 宣長の歌論と漢学との交渉 第六章 村田春海の歌論 春海の漢学の教養について 春海の歌論と漢学との交渉 第七章 小沢蘆庵の歌論 蘆庵と漢学 ただごと歌の説と漢学 第八章 香川景樹の歌論 景樹と漢学 景樹の歌論と漢学との交渉 第九章 大隈言道の歌論 言道の歌論の成立をめぐる問題 言道の歌論と漢学との交渉 第十章 近藤芳樹の歌論 『寄居歌談』の成立について 『寄居歌談』における詩論の影響 結語

本書における研究を顧みて

なお巻頭に小島吉雄博士の序、巻末に宇佐美喜三八略年譜・著作目録、中村幸彦博士の「この論集に憶う」、島津忠夫博士の「編集雑記」、飯田正一博士の「あとがき」が添えられている。

(天理大学教授 長谷完治)

(昭和六年二月二十五日 和泉書院刊 A5判四三七頁 二一五〇円)

昭和六十二年度後半 国語国文学研究室受贈図書リスト

一、しやうるり(浄瑠璃) 十六段本(大学堂書店)

信多 純一教授

二、開館記念展 名作に見る日本版画―その源流から錦絵の登場まで―(町田市立国際版画美術館)

同 右

三、法会(御回在)の調査研究報告書・西国三十三所巡礼寺院の版木(元興寺文化財研究所)

同 右

四、近世歌論の研究 漢字との交渉(和泉書院)

宇佐美シヅエ氏

五、抄物の研究第一号(第五号(愛媛抄物研究会))

柳田 征司氏

六、南九州方言の研究(瀬戸口俊治著・和泉書院)

『南九州方言の研究』刊行会

七、職人歌合 中世の職人群像(平凡社)

岩崎 佳枝氏

八、勅撰和歌十三代集研究文献目録(後藤重郎編・和泉書院)

和泉書院

九、高野山西南院蔵『往生要集』断簡(西崎亨編著・和泉書院)

同 右

宇佐美喜三八著『和歌史に関する研究』再刊案内

宇佐美先生(元、大阪大学教養部教授)の『和歌史に関する研究』(昭和二十七年十一月若竹出版刊)が、長らく絶版になっていたが、この程、文進堂から再刊されることとなりました。

ここに収められている論考は、それまでに書かれた多くの御論考の中から選び抜かれたものです。今日の和歌史研究に対しても、いまなおよき指針となると思われるので、ぜひ御購読をおすすめしたいと思います。

【内客目次】源俊賴伝の研究 藤原公任の歌 後撰集に関する研究(後撰集の特殊性について 後撰集の大輔 後撰集の歌一首に關して) 木下長嘯子の生涯 芭蕉と挙白集 長頭丸隨筆について 百人一首改鑑抄について 古今集左注論について 古学派の歌論と詩話 芦庵の六義説とたどと歌 大隈言道の歌論について 唐詩選と和歌の句題 伽婢子に於ける翻案について

【定価】四八〇〇円 【送料】二〇〇円

購入希望者は「計」五〇〇〇円を下記振替口座にお送りください。

大阪九一六三四二八『和歌史に関する研究』復刻刊行会